

「御師」とは！？

| | |
|-------|---|
| 語源 | <p>「御祈禱師^{おんいのりし}」あるいは「御師匠^{おししょう}」に由来すると言われる。</p> <p>伊勢では、「オンシ」と呼ばれている。</p> |
| 家系 | <p>室町時代後半～江戸時代初頭頃の御師は、荒木田(内宮)・度会(外宮)姓の権禰宜^{ごんねぎ}という職に就いた神人^{しにん}と呼ばれる人々であったが、時代が下がるとともに、それ以外の神職である神役人^{じんやくにん}、商人などの地下人^{じげにん}と呼ばれる人々も御師として活動する。</p> |
| 神職として | <p>権禰宜^{ごんねぎ}(神職の職)になると、五位の位を授かり、その位の人を「大夫(たいふ)」と称したことから、〇〇大夫^{たゆう}と呼ばれる。</p> <p>神職のうち、禰宜以上の者は勅許^{ちよつきよ}(朝廷からの許可)がなければ、宮川(或いは現明和町祓川^{はらいがわ})より外に出られない「禁河の制^{きんが}」という決まりがあった。御師は、権禰宜層が中心であるため、禁河の制に関係なく、全国各地の檀家先に行くことができた。</p> |
| 檀家範囲 | 北は蝦夷地 ^{えぞち} (現：北海道)から南は薩摩 ^{さつま} (現：鹿児島県)にまで及ぶ。 |
| 戸数 | 1番多い時は、宇治に271家〔安永6年(1777)〕、山田に615家〔享保9年(1724)〕あった。 |
| 主な活動 | <ul style="list-style-type: none">・1年に一度檀家^{だんか}を回る回檀^{かいだん}(配札^{くばりふだ})・檀家の参宮時 <p>御師邸への宿泊(神楽^{かぐら}をあげ、ご馳走^{ちそう}、羽二重^{はぶたえ}の布団でもてなし)</p> <p>両宮参拝、朝熊・二見などの名所旧跡、古市などを案内</p> |